

Title	「誘われたことには、取りあえず乗ってみよう」という前向きな姿勢で、自分の世界を広げてきた：久保亮吾准教授に聞く
Sub Title	
Author	池田, 亜希子(Ikeda, Akiko)
Publisher	慶應義塾大学工学部
Publication year	2018
Jtitle	新版 窮理図解 No.27 (2018. 1) ,p.4- 5
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	インタビュー
Genre	Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO50001002-00000027-0004">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO50001002-00000027-0004</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.



## 「誘われたことには、取りあえず乗ってみよう」 という前向きな姿勢で、自分の世界を広げてきた

音楽好きの少年だった久保さんは、今、電子工学分野の研究者の道を歩んでいる。学生時代、NTT時代から研究内容は変わってきたが、オーケストラで多くの楽器がハーモニーを奏でるように、多くの分野が融合する研究という点では共通している。久保さんの選択の裏には、自身が多くの人やモノとつながりたいという気持ちがつねにある。

### —どんな子供時代を過ごされたのでしょうか。

父母と祖父、伯母の5人家族で育ちました。子供の頃はピアノ講師でもあった母の影響を強く受けて、ピアノを習っていました。同じく母の影響でクラシックが好きで、ドボルザークの「新世界」などをよく聞いていました。小学生の頃は合唱部に所属して、NHK学校音楽コンクールの予選に出場するという貴重な経験もしています。

その一方で、学校の勉強では理科や社会が好きでした。友達とテレビゲームをしたり、外でスポーツをしたりすることもあつた普通の子供でした。

### —高校時代のホームステイは忘れられない思い出そうですね。

小学5年生の頃から受験のために週に4～5日塾に通いました。おかげさまで中高一貫の芝中学校・高等学校に進みました。この頃の思い出といえば、高校1年生のときに2週間の短期交換留学でニュージーランドに行ったことです。初めての海外で、たどたどしい英語しか話せませんでした。とにかくコミュニケーションができたことがとても嬉しかったですね。ほかにはロトルアでマオリ族の踊りを見たことやグリーンピースにラム肉、といった食事のことを覚えています。

この頃から語学や文化に興味を持つようになりました。

### —音楽や語学の道ではなく、理系を選んだのはどうしてでしょうか。

メーカー勤務だった父の存在が大きかったと思います。芝高校では、同級生の多くが理系を選択していたことも、迷わず理系に進んだ理由でした。大学は慶應の理工学部へ進学しました。

でも、音楽や言語への興味を失ったわけではありません。大学ではマンドリンオーケストラに所属して打楽器を担当したり、学内外の仲間たちと新しくオーケストラを立ち上げたりして積極的に音楽活動を続けました。オーケストラは横のつながりがあって他大学のメンバーも多かったのも、総勢50名ほどの大所帯で定期演奏会を開催したり、他大学の学園祭でオペラのオーケストラ伴奏に参加したりして楽しかったですね。

言語についても第2外国語のドイツ語のほかに、総合教育でロシア語とイタリア語を選択しました。

思い返してみると、純粋に音楽や言語を楽しんでいた部分もありましたが、音楽の和音や、言語の文法の法則性に理系的な面白さを感じていた部分もありました。

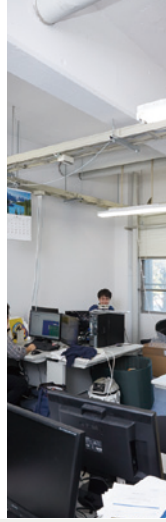
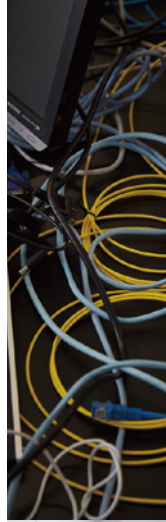
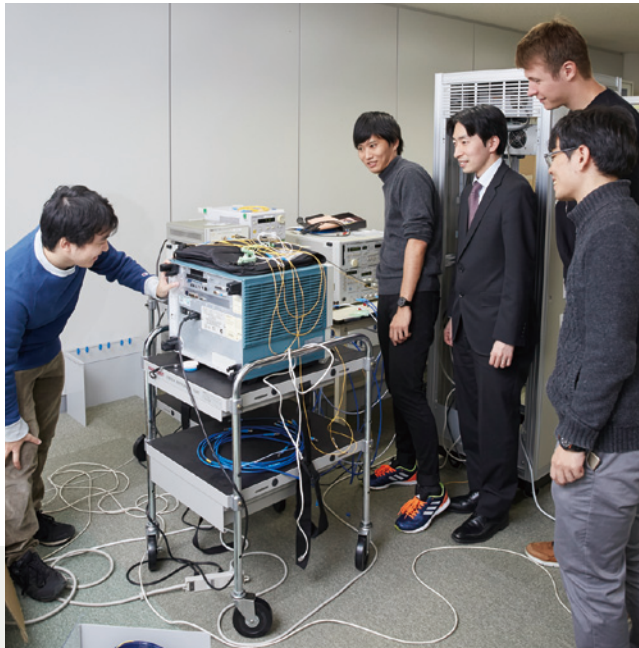
### —慶應義塾大学の理工学部では何を学んだのでしょうか。

大学2年生の時の学科分けではシステムデザイン工学科を選びました。その理由は、大学には学門4(機械系)として入りましたが、その後、電気系の技術にも興味が出てきて、両分野を融合させる勉強をしたいと思ったからです。

大学4年生から、大西公平先生の研究室でロボット制御を研究しました。具体的には、ロボットアームを使って、触れた感触を遠隔に伝える研究をしていました。これは手術用ロボットの繊細な動きに必要なとされる重要な研究でした。大西先生からは、制御やロボットに関する知識だけでなく、物事の本質を追究する姿勢など多くのことを学びました。

### —その後はいったんNTTに就職したんですね。

研究室に所属した大学4年生の頃から、研究の道に対する漠然とした憧れが芽生えていました。また、この頃には、遠隔操作ロボットの研究をしていたこともあり、今の研究に通じる「ネットワークの制御」が面白そうだと感じ始めていました。それで修士課程で就職することにはしましたが、ネットワーク





技術の研究ができるNTTに就職したのです。NTTの研究所では、主に光通信ネットワークの研究をしていました。

NTTの研究所では、研修の一環として、入社後すぐに自ら研究テーマを立案してその研究を進めるという仕組みがありました。指導者の方と相談して多くのテーマを考えましたが、その中で私は光通信ネットワークの省エネルギー化に取り組むことに決めました。理由は、大学でモータなどの電気機器の制御の研究をしている中でエネルギー問題を身近なものとして感じていたからです。最初は、光通信ネットワークはもともと省エネルギーなシステムだからそのような機能は必要ないのでは？という意見もありました。しかし、各家庭に光通信ネットワークが入って装置数が増大すれば、その省エネルギー効果は大きいということが受け入れられて、研究はスタートしました。提案したシステムを試作して実験を行い、標準化提案を行うなど、研究成果が出始めてやりがいを感じながら仕事をしていました。

ちょうどその頃、在職ドクターとして博士号を取った私に、慶應に戻ってこないかという誘いがありました。研究はもちろんのこと教育という職業にも興味があったので、私はこの機会に大学に移ることにしたのです。こうして慶應義塾大学の電子工学科に来て、専門であるシステム制御、通信ネットワークなどをもとに、電力・通信・機械などの各種インフラをはじめ、人の行動までも含めたシステムの統合的な制御によるスマートインフラの実現をめざしています。

### ——最後に、母校でもある慶應義塾大学とはどのような場所でしょう？

自分のこれまでの人生を振り返ると、人とのつながりが大事だったと思います。例えば、マンドリンオーケストラに入ったのも、新人勧誘で声を掛けられたからです。学会などのつながりで声を掛けていただいて始めた研究テーマも多くあります。

もちろん自発的にやってきたことも多々ありますが、それだけでは自分の幅が広がらなかったらと思うます。一見、受け身の姿勢とも捉えられがちですが、自分からはやらないようなことにも挑戦できるというメリットがありますし、それらを活かしてオリジナルのアイデアにつなげることもできます。だから、誘われたことはできるだけやってみよう、いつも前向きに捉えるようにしています。

そういう意味で、いろいろな経歴を持った学生がいる慶應義塾はとてもいい場所です。幼稚舎から上がってきた内部生もいれば、一般入試で大学から入ってくる学生もいますし、海外経験のある学生も多くいます。多様性が豊かで、いろいろな学生がいるなという印象です。研究室も、いろいろな考え方や個性を持った人がいた方が、幅が広がります。特に、電子工学のように社会と関わる研究では、いろいろな考え方があることが重要なのです。

### ◎ちょっと一言◎

学生さんから：

●サイバーセキュリティと無人航空機の飛行制御を研究しています。無人航空機の研究では実際にドローンなどを飛ばすので、研究にはどうしても機械的な側面が含まれます。久保研究室では機械的な研究を行った前例はあまりないのですが、私のチャレンジしてみたいという思いを優先してやらせてもらっています。大学4年生の時には丁寧に細部まで指導していただきましたが、修士2年生の今は基本的に自由なテーマで研究させてもらっていて、適宜アドバイスをいただいています。

(取材・構成 池田亜希子)

さらに詳しい内容は .....  
<http://www.st.keio.ac.jp/kyurizukai>

## スマートを目指す研究の裏には泥臭さがある。 その泥臭さを面白いと感じてほしい。

### 久保 亮吾

Ryogo Kubo

東京都出身。専門はシステムエレクトロニクス。特に、通信ネットワークとシステム制御の融合について研究を行う。2005年慶應義塾大学理工学部システムデザイン工学科卒業。2009年同大学大学院理工学研究科総合デザイン工学専攻後期博士課程修了。博士（工学）。2007年から2010年まで日本電信電話株式会社NTTアクセスサービスシステム研究所において光アクセスネットワークの研究に従事。2010年慶應義塾大学理工学部電子工学科助教（有期）。同学科専任講師を経て、2017年4月より現職（准教授）。

